



商店街関係者多数出席したランドデザイン説明会

まちづくりへ結集 課題と方向を共有

ランドデザイン説明会

「山形市におけるまちづくりの方向性とランドデザイン」をテーマとする説明会が4月26日、山形ランドホテルで開かれた。写真。

会議所に事務局を置く山形市市街地活性化プロジェクト本部が、事業の目的と概要について、商店街関係者、会議所まち賑わい委員会メンバーに説明し情報を共有、広く意見を交

換するために開催した。

山形市中心市街地活性化推進コーディネーターの牧昭市氏が、まちづくりの最新線を紹介。山形市の現状について①総人口、生産年齢人口が共に減少に転じ、本格的な少子高齢化が進んでいる。しかし、一方で高齢者対策がまちづくりに反映されていない。②市税収入の46%が固定資産税と都市計画税で、固定資産税の10%は中心部が収めている。社会保障費など民生費の支出上昇が避けられない現状を考えれば、中心部の衰退は行政破綻につながる。

また、③景気減退やインターネット通販の台頭、商圏の広域化、郊外の大規模ショッピングセンターに影響により、市域全体の小売額は減少。特に中心市街地においてはその影響が顕著で、山形市では平成11年度と24年度を対比すると63%と急激に落ち込んでいる④商業売り場面積がオーバーストアの状況にあり、適正な商業床面積の検討が必要⑤中心街の歩

行回遊性が低く、観光流入拠点であるJR山形駅と市街地の主要観光施設にかなりの距離感があり、観光客増加施策が実施できる状況ではない⑥まちなかに「緑」が少なく「音」がないなど五感に訴える景観づくりに乏しい⑦日本の芋煮会は有名だが、芋煮がふだん提供していないなどイベントとの連携が不足している」と指摘した。

その上で、「官民連携によるまちづくり体制」の構築が必要であり、▼中心市街地活性化事業を含む総合的なまちづくり事業▼、商業関係者(商店街・大型店等)を束ねる組織▼街を運営していくための戦略組織▼街への民間投資を誘発させる先導役▼次世代のまちづくり人材育成を実行する母体、といった使命を担うオーラス山形の「まちづくり会社」を設置が急務と強調した。

説明会后、牧氏を囲んで交流会が行なわれ、中心商店街の現状について率直に意見を交換した。